

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ゆい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100012		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホームゆい		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字江刈内6-8-9		
自己評価作成日	平成 23年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 4月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392100012&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成23年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岩手町の中心街近くに位置し、交通の便がよく人通りが多い地域で、落ち着いた木造平屋建ての建物です。地域の神社祭やどんど祭は同敷地内で行われ、開催中はとてもにぎやかになります。母体となる医療法人は介護療養型施設や往診、訪問看護など、医療が充実しており健康管理などの連携が充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物は平屋造りで、周囲には消防署、スーパー、民家、神社などが立ち並んだ町の中心部に所在し、同法人は他に介護療養型施設、訪問介護・看護などの事業所も運営している。従来の理念を昨年「ゆいっこ」に改め、管理者・職員は言葉の意味を部署会議で理解を深めながら実践に向けて取り組んでいる。特に課題についてはすべて運営推進会議に提案し委員の意見や協力を求めながら改善に努めているほか、足腰を強くし自信につながるトイレ排泄ができるようボール蹴りや室内の周遊等軽運動を取り入れしたり、また居室には利用者と一緒に作成した日課表を掲示し安心して暮せるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ゆい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げた理念一つ一つの言葉がどのような意味を成し何をしていかなければならないかを常に振り返り、実践できるようミーティングなどで確認している。	地域密着型サービスの意義をふまえ、従来の理念を検討し昨年、家族と地域が寄り添いともに助け合うと言う意味の「ゆいっこ」に改め、毎月開催する部署会議で全職員で話し合い理解しながら、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し地区子供会との交流、敬老会への参加、地区サークルの方々の慰問参加を通し交流が図れるよう努めている。	地区の自治会に加入、愛宕神社祭り、ドンと祭、災害訓練など行事の都度案内があり、職員と利用者が参加し交流を深めたり、近所の人に遊びに来てもらったりして、地域とつながりを持ちながら暮らせるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談を通じアドバイスをしたり、知人の紹介で介護相談を受けることがある。実習の機会があれば積極的に受け入れるようにしており、外部講習も機会を設けて行きたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の委員は地元でなじみのメンバーで協力的である。利用者の身体状態や業務の流れについても忌憚なく助言をいただきサービスの向上につなげることができている	会議は自治会長始め商工振興会、包括センター、民生委員、家族をメンバーとして隔月に開催している。運営も協議の時間を設けるなど工夫し、活発な意見交換もあり有意義でサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいていることももちろん、普段から包括支援センターとは連絡を密にし連携を図っている。	地域ケア会議、介護事業所だけの打ち合わせ会議、介護認定手続きなどで情報交換を行っており、日ごろから協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、権利擁護についても勉強会を行っており、共有の認識に努めている。	現在対象者はいないが、身体拘束廃止のマニュアルにより徘徊、ベッド柵、抑制帯腰ベルトなど具体的な行為について研修を行い職員の共通理解に努めケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。	運営推進会議で、物干し場と勝手口の施錠について意見が出され、話し合いで理解を得ながら、センサーを取り付け対応していることから、今後もこのような取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を受け職員に周知し、利用者の本位についても説明している。また、職員がストレスを抱えないよう和やかな雰囲気働けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様権利擁護についても研修を受け職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をかけ説明し、家族が質問できるような対応を心がけている。また母体が医療法人であり、緊急時の受け入れが可能なことを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回無記名のアンケート調査を実施しており、職員の態度や利用料などについても意見を求めており、調査結果は運営推進会議でき報告し、改善に努力している。	日常会話から思いを聞いたり、面会や行事参加時に聞く以外に、介護、接遇、情報提供など項目を設定した家族アンケートを実施して、結果を運営推進会議に諮るとともに部署会議で検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティングで出た要望は、法人の運営会議で検討できる仕組みとなっている。また、なじみの関係が構築できるよう、職員の配置転換に配慮している。	部署ミーティングでの意見や提案で法人の決定が必要なものを除き独自で対応できるものはすぐに運営に反映させている。最近では、物干し場の設置やトイレ、洗濯場の小物を入れる棚を取り付けるなど運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調や精神的状態を把握できるよう、話しやすい環境に勤めている。就業規定は整備し、要望に応じることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修は経験に応じ受講できるよう配慮し、内容は部署ミーティングで共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で症例研修を行い、交流勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家庭の事情や状況を判断し面接を行うことになっており、職員とも情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護者の状態、家庭環境を把握し、どのように対応したらよいか話合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談し状況を確認しており、以前利用していた事業所にも情報提供を求め、本人に必要な支援ができるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を通しともに助け合い、一緒に支えあう関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には頻回に日常の様子を伝え、どのような生活を望んでいるか知り、同じ思いで支援できるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地域での交流に可能な限り参加できるよう支援している。また、利用者が不安を抱かないよう受容、なじみの関係構築のため不安を抱かないような態度で接している。	墓参りは家族の協力を得たり、理美容では馴染みの人来てもらおう配慮するなど馴染みの関係が途切れないよう努めている。また、消防署に畑の収穫物の差し入れたり、ヤクルト販売員等との交流をするなど新しい馴染み関係も築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が問題解決に向け話合ったり、助け合う環境が構築できるよう、職員が調整役に回り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談は継続し行い、安心してサービスが継続できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場に立ち物事を考え、しぐさや行動を把握し対処している。	「洞察なくして計画なし」の信念で、日常の支援の中で聞いた希望や思いを、申し送り時に話し合い、確認した事項をケア記録に記載するなどして把握に努めており、困難な場合は関係者からも聞いて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や性格を理解し、対応できるよう努めており、理解できない行動があれば家族と相談し一緒に考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や動作から身体・精神状態を把握し、その時の状況に合わせ支援できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の言動から意向を汲み取り、部署ミーティングで話し合い目標設定を検討している。	各職員は利用者三人を担当しており、介護計画の原案は担当者の意見とケア記録を参考に作成し部署会議で全職員で話し合い、必要によっては医療・関係機関とも連携をとりながら作成している。家族には来所時に意見を聞き、利用者主体の暮らしを反映した介護計画の作成に努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化を記録し、申し送りなどで共有後、毎日の介護につなげている。課題ができれば部署ミーティングで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の実情に応じ、通院介助や外出支援を臨機応変に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防署、地域包括センターなどとは常に情報を共有し協力関係を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設置母体が医療法人であり、往診や訪問看護などの協力体制を整えており、定期受診は職員が対応している。	利用契約と同時に、かかりつけ医は協力病院に変更することを家族に説明し協力してもらっているが眼科、肛門科などは継続しており、通院の場合は家族に身体状況などのメモを渡すなど適切に受診できるよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の訪問協力を受けており、健康管理に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問し、健康状態の変化や治療方針について主治医と連携できる体制にあり、家族にも状態を情報を提供し協議できる体制となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族と支援方針について協議でき、家族の意向も受け入れる体制にある。	今まで対象者はいなかった。看取りの指針と受け入れ態勢について検討しているがまだ出来ていない。契約の際に利用者の状況により協議することや病院、施設の紹介にも応じる旨を説明している。	重度化や終末期支援のあり方、事業所の対応の重要性については十分な理解を持っており、看取りに関する指針(例)を参考に受け入れ体制作りについて検討中であり、成果を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調不良時の医療ケアや緊急時の状態観察、対応については往診、訪問看護を通し学ぶ機会が常にあり、職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年10回以上避難訓練を定期的に行っており、運営推進会議では協力体制を構築している。	毎月開催している部署会議で職員と利用者が参加して災害についての講話、避難訓練、通報など訓練し、年二回は消防署の立会いで実施しており地域の協力体制も出来ている。	地域の協力体制は、普段の協力関係が大切であり、運営推進会議を活用し訓練時の参加について話し合い、より充実した避難訓練となることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本となる尊厳については勉強会などで学習しており、日常の介護でもさりげない言葉かけに配慮している。	トイレ誘導や入浴時などの声かけは本人を傷つけないよう羞恥心に配慮し信頼関係を築きながら対応するとともに、利用者の書類や情報についても責任ある管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話でも、自己決定を促すような声かけに注意し意思表示がしやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを無理強いすることなく、体調や気分など一人ひとりのペースにあわせ生活を送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れはさりげなく支援し、こだわりのあるスタイルは安心につながるよう嗜好にあわせ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、味付けや工夫を凝らした食事内容とし、要求があればメニューに関わらず内容を変更し対応している。	食材の買い物、調理、茶碗洗いなど役割を持って参加し力を発揮できる場面づくりに努めている。また、収穫した野菜を利用したり、地元の行事食を作ったり、職員も一緒に食卓を囲み話題を提供し雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理や嗜好は、個々の摂取量を記録・体重や運動量を把握し、工夫した食事内容とし、カロリーも調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修にも参加し認識を共有しており、毎食後にケアを行い、義歯洗浄も個々のガーグルを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄表を元に個々のパターンを把握し自立できるよう対応している。	排泄表等で個々のパターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援している。また、身体機能の維持、向上のために余暇時間を活用して廊下の周回やボール蹴り遊びを工夫し、おむつからパンツに、ポータブルからトイレにと改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、乳製品や寒天を使用し自然排便できるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一緒に入れば安心できる人を誘ったり、入浴剤を使用したりと言葉がけや対応を工夫している。	週3回で10時から16時30分までとしているが、希望があれば対応している。同姓介護で対応したり、気の合うもの同士と一緒に入浴したりしており、利用者の希望に合わせ羞恥心や負担感に配慮しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動し夜間は安眠できるよう支援しており、体調や表情が優れない時は健康にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が確認できるよう、個人ファイルを準備し確認できるようにしており、内服が変更になった場合など症状の変化にも十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力が発揮できるよう仕事をお願いし、ねぎらいの言葉をかけることにより楽しく手伝いをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の同伴、外食、日常的に散歩に出かけ気分転換ばかり、ストレスの解消になるよう努めている。	日常的には、食材の買い物や周辺の散歩、畑仕事をしたり、季節行事では花見や紅葉、お祭りなどにでかけたり、希望によっては家族の協力で孫に会いに行ったりお墓参りに出かけたりして気分転換や交流を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出での支払い時は、できるだけ利用者に渡し支払ってもらうことにより、購入した意識や金銭感覚を高める工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ、家族などに連絡ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室は家庭サイズとし食堂などは季節に合わせ装飾を変えている。観葉植物を置き、和めるような雰囲気工夫している。	食堂兼ホールには、テレビやソファ、鉢物を置き、畳敷きの小上がり、その奥にはテレビとソファを配置し利用者同士が自由にくつろげるよう配慮している。外を眺めれば街ゆく人や車、新幹線までもが見える。また、季節感を感じながら楽しく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小間やソファをがあり、気分に応じ一人で過ごしたり、仲のよい利用者と一緒に過ごす空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や家族との写真掲示など自分の居場所であるという意識が持てるよう工夫をこらしている。	ベッド、チェストなどはホームで準備し、使い慣れた仏壇、時計、カレンダー、家族の写真などで飾り付けし、生活習慣を忘れないで自立していつまでも暮せるように職員と一緒に日課表をつくり安心して暮せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どのようにしたら自立した生活が送れるか、常に職員で検討し状況に合わせた環境を整備している。		